



第 67 号
平成 21 年
6 月 発行

前頭葉と老化

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 滉

現代社会の中で、老化していく脳と精神はいったいどんな運命をたどるのか？
老いを実感しはじめた人たちは当然、そのことを真剣に考える事になるでしょう。
そして今日、認知症（アルツハイマー病）等の増加が明らかになっていくわが国でも、働き盛りを越した六十代の方々は、多少なりとも不安を感じているはずで
す。ましてや、MRI検査やCTスキャン検査を受けて、加齢的な現象として大
なり小なり脳萎縮としての変化を多くの方々が指摘されているとなれば、尚更の
事です。これらの現象が、機能的にはどこまで正常であり、どこからが取り越し
苦労なのか、その線引きはともかく、成熟した年代にさしかかった者ならば、自
分の精神機能に何らかの不安を抱くのは当然の事でしょう。

若い頃は、前に行くことはいっぱいで、未知の世界を探りたくて仕方なかった
筈です。大胆なことも平気でやってのけた。しかし年齢をかさねるにつれて、私
たちは安定を求めるようになります。「安定」が「停滞」を招くのではないか、或
いは加齢にともなう精神の変化が進み衰退するののか、と悲観的に考えがちです。
たしかに、年をとると不安は募るし、肉体的にも不利な条件は増えてきますが、
悪いことばかりではないと断言できます。それは、老いの影響を心理的に、もし
てできれば実質的にも遠ざけるために、あえて前向きになるよう自分を駆り立て、

自分の中で停滞をはねのける戦いを日々繰り広げる努力をしているは
ずです。そうする事で精神的な面で一定程度老化予防が可能になるで
しょう。

脳の中で最近一番研究されているのは前頭葉です。二十世紀半ばま
では、前頭葉の働きは理解されず、せいぜい情動反応（喜怒哀楽）の
中枢という程度で、外傷を受けても気にされず余り重要視されてい
なかったことは事実でした。ところが、研究の進歩により、そこは私
たちの精神活動のよりどころであり、成長期や老年期に起きる変化、認
知能力の発達や衰えもそこで管理されているということも解明され
てきました。臨床の現場で、MRIやCTスキャンの検査で、特に前頭
葉の萎縮が高齢化に伴って進行化している事は周知の通りです。しか
も、前頭葉は脳のほかの場所に比べて、老化の影響を受けやすい部
位ということも判ってきました。

年齢が高くなってもすこやかな精神を保つ鍵は、前頭葉にあると言
われるようになりました。前頭葉が順調に機能している人は、年をと
っても明瞭な精神でいられる可能性が高いのです。前頭葉の精神機能
の中には、ものごとを遂行する機能があります。即ち、計画能力・集
中力・思考の柔軟性・共感能力・未知のものに対応する能力・相手の
身になって考える能力等々です。この中で、特に興味深いのは、相手
の身になって考える能力です。人と協力、誰かのために行動、あるい
は対立を解消、その他多くの場面で相手の立場になれるかどうかが重
要と思われれます。充実した人生を送ってきた長寿の人は、周囲にとつ
ても良き友人であったり、ライバルであったりすることが多いが、そ
れもこの能力があればこそ厳しい人生を穏やかに生き永らえてきたの
でしょう。職員も自分の前頭葉の機能を十分に生かして、あらためて
ここに住む長寿者にも、相手を思う心を引き出せるように導いてくだ
さることをお願い致します。

平成二十一年三月三十一日現在

勘定科目	金額（円）	勘定科目	金額（円）
資産の部		負債の部	
流動資産	116,226,101	流動負債	18,104,079
現金	0	未払金	18,104,079
預金	60,816,538		
有価証券	10,000		
未収入金	50,344,010		
立替金	30,300	固定負債	303,082,544
前払金	4,040,557	設備資金借入金	283,350,000
貯蔵品	984,696	退職給与引当金	8,976,544
固定資産	1,310,785,060	賞与引当金	10,756,000
土地	116,295,160		
建物	933,755,503		
建物付属設備	123,204,454	負債の部合計	321,186,623
構築物	95,774,787	純資産の部	
機械及び備品	25,698,504	基本金	228,151,160
車輛運搬具	5,607,110	国庫補助金等特別積立金	780,987,510
器具及び備品	1,297,998	次期繰越活動収支差額	96,685,868
権利	175,000		
退職共済預け金	8,976,544	純資産の部合計	1,105,824,538
資産の部合計	1,427,011,161	負債及び純資産の部合計	1,427,011,161

勘定科目	金額（円）
事業収支活動の部	
収入	401,863,821
支出	377,218,559
収支額	24,645,262
事業活動収支外の部	
収入	120,578,553
支出	120,801,678
収支額	-223,125
特別収支の部	
収入	0
支出	0
収支額	0
当期活動収支差額	24,422,137
繰越活動収支差額の部	
前期繰越活動収支差額	72,263,731
当期末繰越活動収支差額	96,685,868
次期繰越活動収支差額	96,685,868

「社会福祉法人りんさく福祉会」平成 20 年度決算報告(H20/4/1～H21/3/31)が役員会総会(理事会・評議委員会)にて承認されましたので、上記の通りご報告させていただきます。今後も入居者の皆様方が安心して暮らしていける為に、持続性の高い施設運営に務めてまいりますのでよろしくお願い致します。



梅雨と紫陽花

梅雨にはいり、雨の日が多く外に出る機会が少なくなっています。この時期入居様の楽しみは、お花の観賞ですね！北白土にある「菖蒲園」に行ったユニット、またはユニットベランダで鉢植えを楽しんでいるユニット、各ユニットそれぞれ工夫している様です。

七月の行事予定

【七月のお誕生会予定】

七月十七日（金）

豊間 白岩八十子様（九七歳）誕生会

七月生れの入居者は一名ですが、明治四十五年生れのご長寿の方です。当施設においてももう明治生まれの方は白岩様を含め四名だけとなっています。

ご家族様のご参加をお待ちしています。

行います

※雨天時「ピロテイ」職員駐車場にて

「花火大会」 正面玄関前駐車場

七月一日(土)午後七時～

「琴演奏会」 豊間中学校 箏曲部 様

七月一四日（火）午前九時～

「すいか割り」

七月二三日(月)午前二〇時〜四倉 勿来ユニット

編集後記
『望洋莊』便り
平成二十一年六月三十日発行
発行所 いわき市

社会福祉法人
りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

F	電
A	話
X	
(0	(0
2	2
4	4
6	6
)	)
5	5
5	5
1	1
7	7
2	3
5	7
5	3

「落語の豆知識」④

『落語の歴史』

落語は、明治の初めまでは落し噺といいました。落ちのついている滑稽噺を落し噺と言ったのです。「落ち」、「サゲ」ともいいますが、シヤレなどを使って噺に結末を付けるのを落ちといいます。最近では落ちのない落語もあり、むしろ落語家が高座でしゃべるものを落語といったほうが良いようです。安永・天明（一七七〇—一九〇年）の頃、江戸に立川馬場が現れて、同好会のような形の『噺の会』を催しました。このため馬場は、江戸落語中興の祖とされています。この人は、本業は大工ですが、戯作者、狂歌師としても活躍していました。戯作者がつけていた洒落た名前が落語家の亭号になったのも、この人の影響でしょう。

その後、岡本万作や、馬場の息のかかった初代三笑亭可楽が、一定の場所で木戸銭を取る興業を初めて行いました。これが寄席の始まりとされています。落語家と寄席が出来る、噺のほうもどんどん作られて、文化・文政（一八〇四—一三〇）には寄席の数も百二十軒を超え、落語家も増えて三遊亭、古今亭などの亭号もこの時期に出来ました。また、前座や真打という身分制度も出来、長編人情噺の続き読みも行われるようになったのです。

幕末から明治にかけても、寄席は隆盛で、三遊亭圓朝、談洲楼燕枝などの名人が出現し、人情噺

を主体に人気を誇っていました。

「噺家の粋な手ぬぐい紹介」④

先月に続き「いわき寄席」出演者のそれぞれ個性豊かで粋な「手ぬぐい」をご紹介します。



古今亭 志ん橋 師匠の「手ぬぐい」です。

○第十一回いわき寄席 平成三年四月十八日

他 第五三回・第八三回 計三回出演

古今亭志ん橋師匠は、平成15年11月25日「望洋荘開設記念」いわき寄席にご出演頂きました。また、平成18年1月には望洋荘に来荘され、入居者様に落語と祝獅子舞をご披露くださりました。望洋荘には特に縁の深い噺家さんです。

柳亭 さん喬 師匠の「手ぬぐい」です。

○第十五回いわき寄席 平成四年二月十一日
他 第一〇一回 計二回出演



柳亭 痴楽 師匠の「手ぬぐい」です。

○第五回いわき寄席 平成二年四月二三日

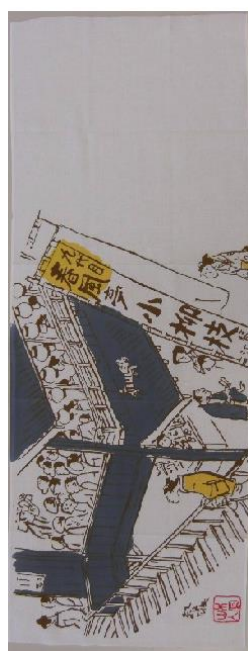
他 第二四回 第五五回 第七一回 第八九回

計五回出演



春風亭 小柳枝 師匠の「手ぬぐい」です。

○第六二回いわき寄席 平成十二年五月二二日出演



「バンド＆フラダンス」Bフラット様

六月二十六日（金）午前十一時より、二階多目的塩屋岬広場にて、Bフラット様による「バンド演奏＆フラダンス」を披露いただきました。Bフラット様の来荘は今回で三回目となり、いつも素晴らしい懐かしい曲や、異国ムードたっぷりのフラダンスをご披露いただいております、今回のご来荘も入居者・職員一同楽しみにしております。



「流しソーメン」四倉ユニット

六月二十八日（日）午前十一時より、二階多目的塩屋岬広場にて、「流しソーメン」を四倉ユニットの入居者・ご家族様参加で行いました。初めての試みで、ソーメンを流す速さ設置する場所など、色々問題がありました。ご家族の皆様のご協力を戴き、楽しく時を過ごす事が出来ました。これから夏に向けてまた行いたいと思います。



「おやつバイキング」

六月十日・十七日（水）午後二時三十分より、二階多目的塩屋岬広場にて、「おやつバイキング」を実施しました。ディスプレイされたおやつの前で「どれが良いかな」「あと何個選んで良いの」と皆様嬉しそうに右往左往していました。選んだおやつを美味しくそうに頬張る姿を見てとても嬉しかったです。また行って欲しいと要望も多く、定期的に実施して行きたいと思います。

